

1. 演題 『成田の乱』

概要 成田空港建設の反対運動経緯 戦後最大の対政府建設反対運動
千葉県芝山町と石井731部隊の関係等（エピソード小話）

2. 講師概要

牧久（まき ひさし）氏：1941年大分県生れ。早稲田大学第一政治経済学部政治学科卒業後、日本経済新聞社に入社。社会部記者、サイゴン・シンガポール特派員、社会部部長、労務担当常務などを経て代表取締役副社長。リタイア後、2009年からノンフィクション作品を発表。満鉄理事・国鉄総裁を務めた十河信二の伝記『不屈の春雷』や、革マル派副議長・旧動労・JR東労組委員長を務めた松崎明の伝記『暴君』、『転生—満州国皇帝・愛新覚羅家と天皇家の昭和』（小学館）などを上梓。入社してまもなく、牧記者は成田に張り付き、後13年間、地元取材を続けることになる。」

3. 講演概要

（羽田空港パンク、三里塚へ）昭和39年、オリンピック直後、佐藤栄作政権はパンク状況の羽田を国内線専用とし、40年11月成田に近い富里村を新国際空港を予定地と内定したが、豊かな農作地帯で、農家の数も多く、反対運動が強く、この南側の三里塚、芝山町一帯に変更、天皇家の農作地、御料牧場（4割）と残り700ha、戦後の農地改革解放で元満洲開拓民等に払下げの土地を空港用地に決定。政府は安易に臨むが地元の抵抗は激化する。

三里塚農民たちの、農地強制執行に抗する、「血で血を洗う抗争」が始まり、新聞やTVで、その問題化がとり上げられてくる。最近、牧久氏の新著作「成田の乱」で、13年にも及ぶ抗争の厳しさ激しさが紹介され、1960年の安保闘争を凌ぐ、戦後最大ともいえる「反政府運動と表現される。13年間の長きに及ぶ学生を含む反対派の参加者数、これに対する警察の機動隊動員数累計は、相当な数となる。昭和46年9月の第2時代執行では全国から1万人を超える学生たちが結集、機動隊と各所で激突、神奈川県警機動隊の3人が死亡。死傷者は続発し死者数は開港まで双方合わせて7人に達した。

闘争リーダー、地元の農機具販売業を営む、クリスチャン・戸村一作の登場。彼が指揮する地元農民の反対同盟は、三派全学連（中核派、社学同、社青同会報派）を中心とする過激派（核マル派を除く）と結び国家権力との激しい実力闘争へ向かう。支援団体である外部組織としては、反対同盟は、共産党・民青を嫌い、過激派の三派全学連（秋山信将委員長、中核派、社青同解放派、社学童）と接近。反対同盟は座り込みを実施、公団側は外部測量実施のため機動隊を動員し激しい闘争がはじまる。

戸村一作は、成田空港が4km滑走路一本で暫定開港した一年半後昭和54年七〇歳で悪性リンパ腫瘍で死去。戸村の死後、彼の下で結束していた過激派は求心力を失い衰退へ。B滑走路（2千5百M、）の南端に今なお2戸の地主が残る。講師は、その間の激しい闘争相剋を語ります。



成田市役所前で角材を手に機動隊と衝突する中核派の学生たち（1968年2月26日）「成田の乱」より